

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との関係を思い、職員で作った理念である。毎朝職員全員で唱和し、その理念を念頭にケアにあたる様になっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には利用者の個々の状態にあわせ参加している。また、地域の方々もボランティアに来てくださり、地域の方と利用者の交流もある。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症をより深く正しく理解して頂けるよう、運営推進会議や地域の集会で報告や勉強会を行っている。また家族や地域へ発行している施設だよりもにも認知症に関する事を記載している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告やスタッフの研修報告、グループホームでの課題などを報告し、実状を理解して頂くと共に、参加者からの意見を頂き、サービスの向上と充実に活かせる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険法に関するアドバイスを仰いだり、介護相談員の受け入れ等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を基本とし繰り返し勉強会などで取り上げ理解している。しかし、1階の施錠に関しては立地条件のもとご家族は理解され、利用者は安心していると思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会等で理解を深めるようにしている。また職員のストレスが溜まることで虐待につながる可能性が高くなるので、1人でケアするのではなく、チーム全体で協力してケアにあたるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学んではいるが、実際に利用されている方はいない。利用者の方には必ず身元保証人を立ててもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は解りやすい言葉や具体的な事例をあげて説明している。普段から不安や疑問に思っている事など話しやすい関係作りに努め、説明の際、理解、納得をして頂ける様にしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置や家族へのアンケート、家族会等で意見を出して頂き、運営に活かすようにしている。また、家族の面会時や毎月のおたよりで利用者の状態を報告し、家族の要望や意見を聞く様にしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議等で提案や意見を出してもらい、運営に反映するようにしている。また、職員がいつでも気兼ねなく自由に意見を言えるような人間関係作りや雰囲気作りにも努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員に声かけするよう努め、待遇を含め、環境整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修には夜勤者以外の職員残員が参加し、外部研修にも参加できるよう計画を立て、参加後は研修報告を必ず行っている。また、内部研修には代表者や主治医も参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設への実習や外部研修を通して同業者と交流を行うことで情報交換を行い、サービスの向上に努めている。また、他施設からの実習も受け入れており、より多くの情報交換が出来る様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の前には必ず本人と面会し、状態や本人の抱えている不安や要望を把握するよう努めている。また、サービス開始後も繰り返し聞いて本人の安心につなげるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には必ず面会し、本人とは違う不安や要望を傾聴して理解し、お互いに信頼関係が深まるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをもとに必要な支援を見極めてサービスを実践しその結果を踏まえた上で、他のサービス利用が必要な場合は検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事を一緒に行いコミュニケーションを取りながら生活している。職員も利用者から学ぶ事も多く、職員は時に家族になったり、知人になったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加へのアプローチを行い、一緒に時間を共有して頂けるよう努めている。また、家族の思いも様々なので、出来る範囲で本人を支えて頂き、押し付けにならないよう気をつけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も頂きながら外出の機会を設け、馴染みの人に会ったり、場所に行ったりできるよう努めている。また、昔から付き合いのある方や職場の同僚の訪問も歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を十分に把握した上で席等に配慮し、職員が間に入って関係を取り持つことで支え合えるよう努めている。また、気の合わない利用者同士のトラブル予防にも気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも受けている。医療、福祉機関の紹介も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや会話の中から本人の思いや希望をくみ取り、職員全員が情報として共有していくよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	資料を通してこれまでの生活歴等を把握するだけでなく、本人や家族からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で1人一人の状態を確認し、残っている能力や機能等の把握に努め、活かせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員の意見や要望を聞き入れて話し合い、現状を把握した上で介護計画を作成している。また、状態が変わった時はその都度変更したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、ケアの実践結果など個々に記録し、申し送り時に必要に応じてケアの見直しを行っている。また、介護計画に基づく記録の書き方を実践しており、見直しに役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に要望に応じた支援に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に暮らせるよう地域の方々や消防署の方にも協力して頂き、避難訓練等を行っている。また、施設外での楽しみを増えるよう地域の行事等への参加にも努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望とする病院を受診して頂いたり、病状によっては主治医の方から専門の病院を紹介して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>主治医や担当看護師の往診が月2回あり、利用者の状態変化等詳しく報告し、往診以外でも状態が変わった時は随時報告、相談、状態に応じて受診等行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は主治医や家族に状態を聞いたり、職員が面会に行く事で、本人が安心して頂けるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に施設側の方針と重度化への説明を行っている。また、面会時や毎月のおたよりで本人の状態や今後起こりうるリスク等もお伝えし、その都度今後の方針等を話し合っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の研修は実技も交えて定期的に行っている。対応の手順書いたマニュアルをいつでもすぐ見れるようスタッフルームに掲示してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定と昼間想定に分けて火災訓練を行っており、内1回は消防署の方にも来て頂き指導して頂いている。避難方法や手順を書いたマニュアルをすぐ見れるようスタッフルームに掲示してある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、プライバシーにも配慮した声かけに努めている。失敗してしまっても本人が傷つかないように声かけや他入居者に気付かれないようにしたりと努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通して希望を聞いたり、家族からの情報も参考にしながら本人のしたい事を選ぶよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、起床時間や入浴、食事休息など本人のペースに合わせた生活が送れるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	1人で身だしなみが整えられない方へは職員が選択肢を作って支援したり、化粧品等も本人が愛用しているものを買ってきて使っている。また、外出や行事を早めに知らせる事で、別の衣類に着替えておしゃれを楽しんでいる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの出来る事を活かして一緒に食材切や盛り付け、配膳、後片付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日でいろんな食材から栄養が摂れるよう献立を考え、個々の状態に合わせた食事量や形態でお出ししている。また、食事量や水分量のチェックを行っており、十分な栄養や水分が摂れるよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底して行っており、本人が磨いたあと個々の口腔状態に応じてチェックと仕上げを行い、生活保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら失敗のある方は時間をみて早めの声かけや誘導を行って、失敗を減らせるよう努めている。オムツも個々の状態に合わせ、夜間のみ使用したりと時間を決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を取り入れた食事作りや、便通を促す牛乳やヨーグルト、ヤクルトを摂って頂き、適度な運動を促して便秘にならないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日や時間帯は決まっているが、本人のその時の体調や気分に合わせて変更したりと臨機応変に行っている。また、入浴時に髪を染めたいという希望者に対しても少しでも楽しみができるよう協力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時はソファや居室等で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬の目的を把握するよう努めており、状態変化時や副作用が現われた時はその都度主治医に相談して、本人に1番合った薬を服用できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの特技や趣味を活かし、裁縫や踊り、書道等、好きな事に力を発揮し、張り合いや喜びを感じられるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望に沿って外出できるよう心掛けており、その日の外出が難しい時は予定を立て、家族にも本人の希望を伝え、協力して頂いている。		
		○お金の所持や使うことの支援	お金の所持はして頂いてないが		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物や欲しい物があれば一緒に買い物に行き、自分で選んで購入することで喜びを感じて頂ける様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があればこちらから電話をかけ、贈り物が届いた時も電話をかけて話して頂いている。また、身内の方と手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節を感じながら快適に過ごせるよう、季節に合わせた壁紙を飾っている。また、気持ちよく過ごせるよう、細目に空気の入替えをしながら室温や明るさにも気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあったり畳のスペースがあり、思い思いにゆっくりと過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>実際に自宅で使用していた家具や本人の好きな物を自由に持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ、浴室には手すりを付けてあり、居室の家具の配置も本人が安全に過ごせるよう工夫している。また、個々の出来る事やわかることを把握したうえで、持っている能力を活かしながら自立した生活が送れるよう支援している。</p>		